

東京 IPO 特別コラム

2016年12月12日 Vol.60

トランプ相場は意外なほど強い

米国のトランプ新大統領が公約に掲げていた政策への期待感から日米ともに株高トレンドが続いています。積極的な財政政策と法人税減税という施策が米国の景気を良くしてくれるとの期待を背景に意外なほど強い展開が見られますが、選挙結果が大方の予想とは違ったものとなったからこそ株式相場も想定以上に強いのかも知れません。とは言え、まだスタートもしていない中での先取り相場についていくかどうか思案されるところかと思えます。こうした相場展開がいつまで続くのかはわかりませんので、多少冷めた見方もしておく必要があります。名前がトランプだけにトランプマジックで景気浮揚できるのでないかとの淡い期待があるのかも知れませんし、投資家は意外性を好むので、こうした展開も致し方ないところです。

こうしたさなかにトランプ新大統領と面談したのがソフトバンクグループ(9984)の孫社長。彼の行動力には驚くばかり。5兆円の投資を誘致した話が駆け巡り同社株は7900円台まで跳ね上がりました。日経平均の上昇は同社株に限らずファーストリテイリング(9983)やエーザイ(4523)などの値がさ株によるところが大きく、個人投資家には面白くない展開なのかも知れません。

このように日本株は米国株高や円安のトレンドに従い堅調な推移を辿りつつありますが、細かく見ていると強い銘柄は円安メリットを受けそうな輸出関連銘柄や指数連動型の銘柄や銀行株、商社株など流動性の高い銘柄に集中しており、個人投資家の好むマザーズ銘柄の多くは調整含みのまま推移しています。二律背反の道理で全面高とはいかず限られた銘柄に集中する点はバブル時代を彷彿とさせてくれます。相場は買いたい投資家と売りたい投資家がいて成立する世界ですが、メディアなどで今さら流れてくる株高報道を横目にどこまで投資家がついてくることができるのか、今後の師走相場の動向に注目が集まります。先週末に日経平均は1万9000円台まで回復し、NYダウも2万ドルに接近してきました。相場というのが人の心理で動く要素が強いことから意外性のある相場展開となりつつありますが、今回の株式相場の堅調な上昇が、迎える2017年が本格上昇トレンドに至り景気浮揚に向けたお膳立てとなるのであれば幸いです。

こうした株式相場の底堅い潮流の中で日本のIPO市場では期待された自動運転関連のZMPが顧客情報の流出問題で19日に予定していた上場を残念ながら延期すると発表。その期待感を先取りして急騰していた銘柄群に失望売りが出ています。日経平均に比べマザーズ指数が頭重い展開なのもこうしたことが影響したのかも知れません。

この結果、12月のIPOは14社へと1社減少してしまいましたが、ビジネスの失調による延期ではないので過度に悲観視する必要はないかと思われれます。むしろセキュリティニーズの高まりから関連銘柄に対しては前向きに評価すべきかと思われれます。IPO市場における相場の変遷は常であり、調整局面が未来永劫続くこともない訳ですから、ここは強いトレンドの銘柄も弱いトレンドの銘柄も企業価値に焦点を置いて銘柄研

東京 IPO 特別コラム

究を行い、しっかりと投資判断を下すべきかと思われます。年末特有の株価変動の中でこそ各企業から発信される IR 情報にしっかりと耳を傾け、中長期スタンスでの投資を心がけて頂くことが重要です。とりわけ過去1、2年の間に IPO した銘柄の中には公開価格を割り込んだまま、誰も見向きもしなくなった銘柄が散見されます。上場を果たした以上は投資家に足下の業績や今後の事業展開を明確に説明していく姿勢が求められます。投資家の皆さんは企業の IR 活動を通じて得られる投資情報に大いに関心を寄せて頂きたいと思ひます。トランプ相場で上がれば何でも良いというのではなく、どのような投資環境でも株価を決めるのは本質的な投資価値だという点を忘れないことです。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)